

アタゴオルは猫の森 4

ますむら・ひろし

ATAGOUL is Cat's Forest

MFコミックス
フラッパーシリーズ

アタゴオルは猫の森 4
ますむら・ひろし
MEDIA FACTORY

大金持ちのゼッキ八世が所有する古代の笛は
どんな名手でも音を出すことが出来ない。
でもギルバルスならば
吹けるかもしれない『銀宮ノ笛』。
コン・コンと扉を叩く音がするが
開けてみると誰も居ない、
そんなイタズラをするのは
やっぱりヒデヨシ?・『コン・コン』。
適当に作った
スミレ博士の詩に出て来る
謎の言葉"テルウテ"。
その意味するものは?
今ここに大冒険が始まる!
『テルウテ・トリ⑤』など8編に、
作者によるそれぞれの話の解説
『アタゴオル余波4』を収録。

ISBN4-8401-0456-5
C9979 ¥514E
9784840104562
1929979005146
定価:本体514円(税別)
雑誌52641-56
メディアファクトリー
MEDIA FACTORY



ますむら・ひろし

昭和27年生まれ
山形県出身。
昭和48年デビュー作「霧にむせぶ夜」が
「週刊少年ジャンプ」に掲載。
その後青林堂に入り
雑誌「ガロ」を舞台に活躍、独立後現在に至る。
平成9年には「アタゴオル玉手箱」で
日本漫画家協会賞大賞受賞。
宮沢賢治作品の漫画化にも意欲的に取り組み、
独自の感性で大胆に視覚化している。
中でも「銀河鉄道の夜」は
昭和60年、劇場アニメとして公開、
マンガファンだけでなく
宮沢賢治愛好家の間でも高い評価を得ている。

装画・ますむら・ひろし
装幀・多田和博＋岡田ひとみ
フォーマットデザイン・フィールドワーク

ATAGOUL is Cat's Forest

アタゴオルは猫の森 ④

ますむら・ひろし



アタゴオルは猫の森 ◇4◇

ATAGOUL is Cat's Forest

第一話　銀宮ノ笛




早く1匹釣ってくれい
生食いしたいよォ
さわがしい釣りじゃのう
アンタ誰？
カネコットのゼッキ八世である
ゼッキ八世！


ゼッキさん〜〜〜
そいつと話してはダメダメよ〜〜〜
そいつが大バカ猫のヒデヨシでえす
ほう 君がヒデヨシか
なんだ ドラネコ団なにやってんだ?
オレたち ゼッキさんの家来になったのさ
どーだね 君も家来にならんか
オレにも家来がいるのよ
テンプラとかパンツとかさ
おまえもならないかオレの家来に?


無礼なこと言うな
ゼッキさんは大金持ちなんだぞ
別荘建てたんだぞ
オレだって別荘あるのよ
おんぼろのヒョウタン家しかねーだろう
あらゆる家はみんなオレの別荘なのさ
ぐ〜っ
おっカツラ君空腹かね
よろしいドラネコ団食事に行こう
食事?
ゼッキさんは最高だーっ


やっと静かになったなあ
ゼッキ八世って……
カネコットの大事業家じゃなかったかなあ
ああ
次々と発明して大金持ちになったらしいな
食事って
高級料亭貸し切りかよォ
ワハハハ
んめ〜〜〜っ
シビレるぜえ
満鯛の刺し身
うう
家来って幸せよォ
んめえっ


ゼッキ様ーっ
家来になりましゅう
びだん
ぐっ
うっ
こらヒデヨシ
おまえ オレの
子分だぞっ
ハイハイ
オーイおやじ
満鯛大盛り10枚ねっ
翌日
これが
ゼッキ氏の
別荘か
ワハハハ
いいぞ
ドラネコ団の
声がするね
アイツ
なにやってんだ?


タコ〜ッ
待て〜っ
きゃーっ
ゆるして
ゆるしてえ
ワハハハハ
ガサ
ガサ
おっ
テンプラ
おまえも家来になれ
タダ酒タダ飯よォ
情けない
なーーっ
よーーし
それでは
ありがたい笛に
お参りせよ
へいへい
ありがたい笛？


あーっ
ありがたや
なんだか
判んないけど
ありがたや
ゼッキさん
その笛 なにか
ただならぬ気配が
するのですが
ほほう
お嬢さん
お目が高い
ツキミ姫と
いいます
これはカネコットの
美術商から100金貨で
買った古代の笛じゃよ
ひゃく
金貨!!
だが不思議なことに
どんな笛の名手でも
音が出ないのじゃ
ホホホ
親父よォ
オレが音を
出してやるぜい



無理じゃよ
笛を吹いた者には金貨50枚やるぞ
吹きましょーーっ
絶対音出すぜい
スーー‥
スーー‥
無理だよ
その笛には妖力がかけられている
妖力!?
ツキミ姫
君は妖力とやらを解けるのか
私にはできません
でもギルバルスなら吹くでしょう
ギルバルス


ギルバルスか
あいつなら吹くかもな
でも どこにいるか判りませんよ
よーーし
ギルバルスを見つけた者に金貨10枚
まかせなさい
ギル公はオレの家来なのよォ
ギル公?
3日後
ギルバルスー
出て来なさ〜〜い
ウドンおごるぞーっ
ドーーン
その作戦無理ですねぇ


じゃあ次の作戦やろうぜ
本気ですか
もちよ
助けて〜〜ギルバルスーッ
ポン
ホーレホレ
よーしヒデ丸
伝言林に書いてくるんだ
「悪党につかまった早く助けてギルバルス」ですね
たのむぞヒデ丸
まかせて下さい
これで成功
オホホホ
これはこれは
わ
腹黒魚屋


なにが腹黒だっ
オレは腹倉だよ
いつもいつも
万引きや
かっぱらい
アリガトなあ
キャーーッ
ギルバルス
トォ
助けて〜〜〜
ギルバルスーッ
ギルバルス
アタゴオルに
いるのかなあ
いたとしても
吹くわけないよ
動機が
不純だもんな
なにかというと
ゼッキ氏は
「褒美をとらす」
だからな


金貨ですべてが手に入ると思ってるのかなあ
翌日
「ギルバルス あんどん木の所に置いた笛吹いてくれ 金貨5枚はらうぜ ー貴方のヒデヨシ」
あいっ
5枚しかはらわないのか
このやろう まだ懲りないのかーっ
ドスドスドス
ホホホッ 昨日 オレをぶったたいた罰なのよ〜〜っ
んっ
なにが罰だっ
らんらら ら


ゼッキさんはーっ
最高だあ
ささゼッキ先生どーぞ
うむ
あらっ腹倉親父もお酌してるぞ
店の魚みんな買い上げたらしいぞ


ゼッキはなんでも手に入るぅ
いかにも
ブフフッ楽だよなあこの親父
褒めればなんぼでもタダ酒なんだから
子供の頃貧しかったワシは必死で生き莫大な稼ぎをした
偉いっ
偉いわよーっ
アタゴオル中の店の品物を買いしめられるぞ
素晴らしい
そーよっみんなゼッキちゃんのものよーーっ
あの月だってワシのものだ
そーそーっ月も君のもの〜〜っ
！


月は誰のものでもない
誰だ
おまえ？
きゃあ〜っ
ギルバルス
やっぱり
来てくれたのねええっ
信じられない…
ギルバルスが
来たぞ
どういうことだ
金貨目当てでもあるまいに
さあっ
その笛
吹いてくれ
金貨5枚
やるぞォ
金貨など
いらないが
この「銀宮」が
欲しい


えっ
銀宮…!?
いかにも
伝説の笛「銀宮」
ぜひこの手に
収めたい
ホホウ…
オレも
ゼッキ八世だ
その笛の音が
流れ それが
100金貨の値打ちの
音ならば 笛
くれてやろう
いいだろう
なに 馬鹿なこと
言ってんのよっ
ギルバルス
笛なんかいーから
金もらえよおっ
スーーッ
スーーッ
あれっ
スーッスー
いって
音が出ない
ホーラ
見なさい



オレの
言うこと
聞かないから
音が出ない
のよォ
ギルバルス どうやら
お主 ハズレだったなあ
!
なんだ
この感じは?
あ
うっ
月光が
波のように
来るぞっ
ああ

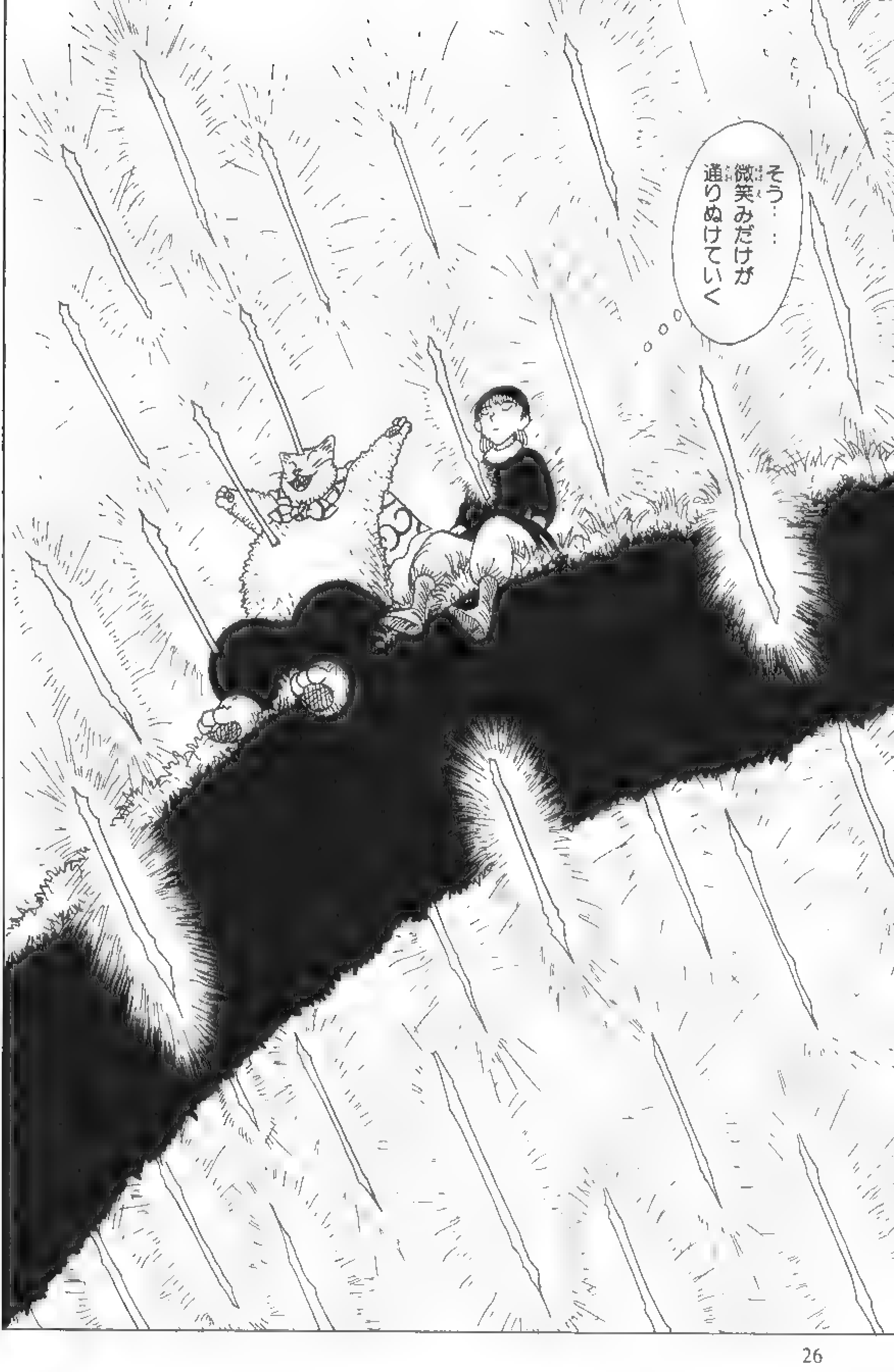

コレは!!
らっ
どうしたのよ みんな?
ワシは…月を手に入れるなんて……なんという尊大なことを
あらゆるものを手に入れたつもりで
金貨を集めれば める ほど


コレを失くしていたんだ
コレ?
コレってなんだ?
あれっ ヒデヨシ光がささってないな
ひょっとして
ギルバルスの笛の音も聞こえないんじゃないの?
んなもん聞こえないぞ
デブで鈍感でにぶいから失格なのさ
なんだとォ
くっそォ
なにが失格だあ



ゼッキ親父は急に地味になるし
笛は聞こえないし
おかしいなあ
ちゃんと響いたはずなのに…
ら
オオッ来た
来たわよ
そうかコレか
……
あそこに浮かんているのは
お月様じゃなくて


微笑みなんだね
うん


そう……
微笑みだけが
通りぬけていく

第二話　コン・コン




テンプラの家
らんらん
テンプラ
いるかなあ
コン
コン
どうぞ
開いて
ますよ
んっ？
しーん


あれ…
誰もいない
コンコン
うっ
うーーむ
誰だ?
さっ
ヒデヨシ〜っ
戸たたいてイタズラするんじゃないよ
あっ


はて？
ワタクシ
戸などたたいて
おりません
おまえねえ
見えすいたウソ
つくんじゃないよ
オレは
ウソつかない
ところでよっ
ヒデテン温泉に
行こうぜ
ヒデテン
温泉…!!
ら
ホントだ
湯気がない
水だよ
夏すぎた
あたりから
くっそお
熱くなったり冷たく
なったりっいい加減な
温泉だなあ



「こうなったら噴火杖で鳥霧山噴っ飛ばすぞお」なんて思ってるだろう
そーよ当然なのよーっ
あれっ…杖はどこにあるんだ?
あれ? あれれっ?
杖はもうないよ 時王がバイオリンに変えたじゃないか
そーかっ
唐あげ親父ー
噴火フンカなのよーっ
ドス
ドス
パンツの家
でも
唐あげ丸さん旅行に行ってるだろう


コンコン
ん？
ああ
どうぞっ開いてるよ
し〜ん
たぶんヒデヨシだよ
さっきオレの家でもコレやってたんだよ
それじゃ無視してよう
コンコン
コンコン
もーっ
うるさいぞヒデヨシ
いえ〜っパンツ


なにがいえーっパンツだよ
戸なんかたたいてイタズラすんなよ
たたいてないわよ
おまえねえ見え見えのウソつくなよな
ホントなのよーっ
おまえのホントなのよにどれだけ騙されたことか
だからホントなの
そんなことより唐あげ親父どこに消えたんだ？
しばらく旅行中らしいよ
うぐっパンツ頼むのよォ ヒデテン温泉水風呂になったのよォ
なんとかしてくれよォ
あの温泉はあきらめてさ
他の温泉掘れば？


なるほどォ
そーかっ その手があったのくぁ
掘って掘って掘りまくるわよーっ
ドス
掘れば湧いてくるってもんじゃないのに
全然相手の話聞かないもんなあ
掘るのよォ
んっ


ちょっと休憩
ぐ
シュ
わはは
コンコン
らっ
誰だ
オレにイタズラするとは太い野郎だ
すおうっと
コンコン
誰だっ てめえ


コンコン
ら
鳥だ
コラ 鳥
おまえのせいで
オレは無実の
罪なのよォ
ん
ずいぶん
なつこい
奴だな
ペヒョ
ペヒョ
3日後



ズドーン
くっそお
どこにいるっ
湯の野郎出て来いっ
やっぱりおまえか
あっちこっち爆発させて
ヒデヨシ地面に穴をあければ
湧くってもんじゃないんだよ
深〜〜く掘りまくれば出るわよっ きっとっ


地下に流れる「湯脈」を見つけなくっちゃダメなんだよ
湯脈？
んっ
おっ
あれ
おっ
なんだ その鳥 見たことのない奴だな
…信じられない…


トリキリ・トウ鳥だよ
えっこれが？
あの尾羽根の形からして図誌とそっくりだ
どんな生態なのかほとんど判っていない幻の鳥
鳥類研究者なら一度は見てみたいと思う夢の生物だ
こいつの名前は「コンタ」だよ
ホラ この前 おまえたちの家の戸をコンコンたたいてた奴は
このコンタだったのさ
フーム……やっぱりな


考えてみれば
おまえが戸をたたいてから入って来たことなど一度もないもんな
ということは…
おまえがオレたちの家に来るのを先回りして報らせた…のかな
あっコンタてめえ
また見せびらかして食っているぅ
オレにも魚食わせろっ
食わせないとおまえ焼き鳥にして食うぞっ
ヒデヨシよォ
この鳥と一緒にいるだけで
おまえヨネザアド鳥類研究学会の黄金ツメ賞がもらえるぜ


賞なんかどーでもいいのさっ
しかあし
ワシは欲しい
賞ならなんでも欲しい
トリキリ・トウ鳥焼き鳥にしなければもらえるよ
でもなんか結局食ってしまうような気がするからコワイんだよな
ああ早く隔離した方がいいような気が…
失礼なっワシが貴重な鳥を食うわけないだろう
ワシが信じられんのか
信じられるのはおまえの胃袋がすさまじいってことさ
翌日

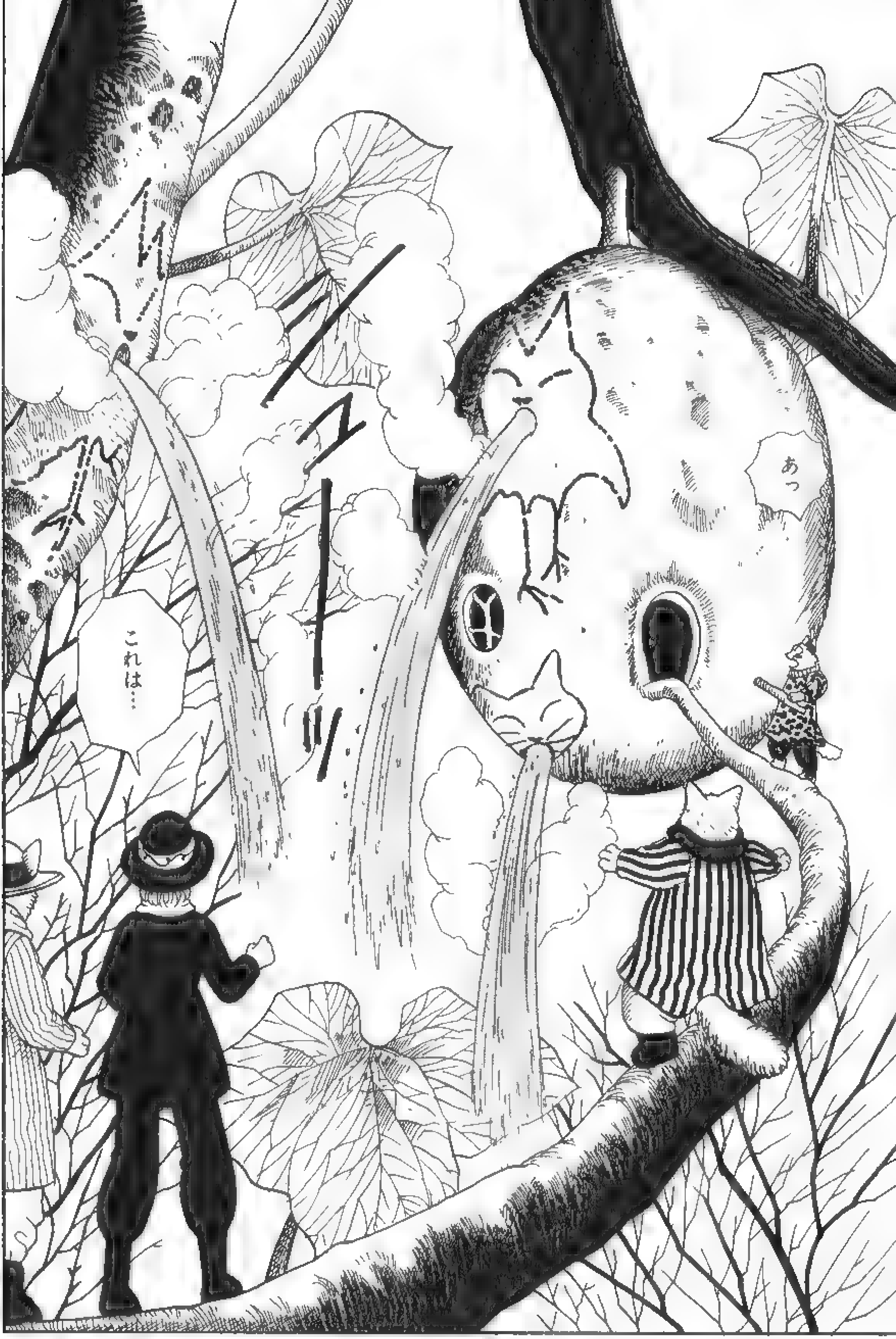

コン
コン
コンタは君がよっぽど好きなんだね
あーら そーかしら?
だって ホラ
コン
変な顔じゃのう
君の顔だよ
しかし どうして おまえに あんなに なついている のかなあ
原因が判ったぜ


ヒデヨシ この卵の模様見憶えないか？
知らんぞ
あっ それ
ホラ 今年の夏 鳥霧山で見つけてっ 持ち帰って食おうとしたヤツ
そっかっ
家で大酒飲んで卵がどこに行ったか判んなくなったのじゃ
なに？
卵はたぶんひとりでかえってコンタになったのさ
そうか… ヒデヨシ君を親だと思っているんだ
パンツ よくも食ったなっ
このカラはなおまえの家の中にあったんだぞ
木の実を食わず…


川魚やウドンを食べるのはそのせいなのね
10日後
コンコン
コラーッ やめろーっ
オレの家になにを彫っているんだ
愚か者
貴重な鳥のありがたい絵に感謝しなさい
どっかに行け 馬鹿鳥めっ
おまえも鳥も迷惑なことしかできないのか
幻の鳥の悪口を言うと天罰が下りますぞ



しかし ずいぶん アッチコッチ 彫ったもんだなあ
あっ
ヒデヨシと パン屋がもめてるぞ
家にあんな絵 彫られたら もめるだろう
キッキッキッ
バサササッ
おんや？
あっ
くわっ

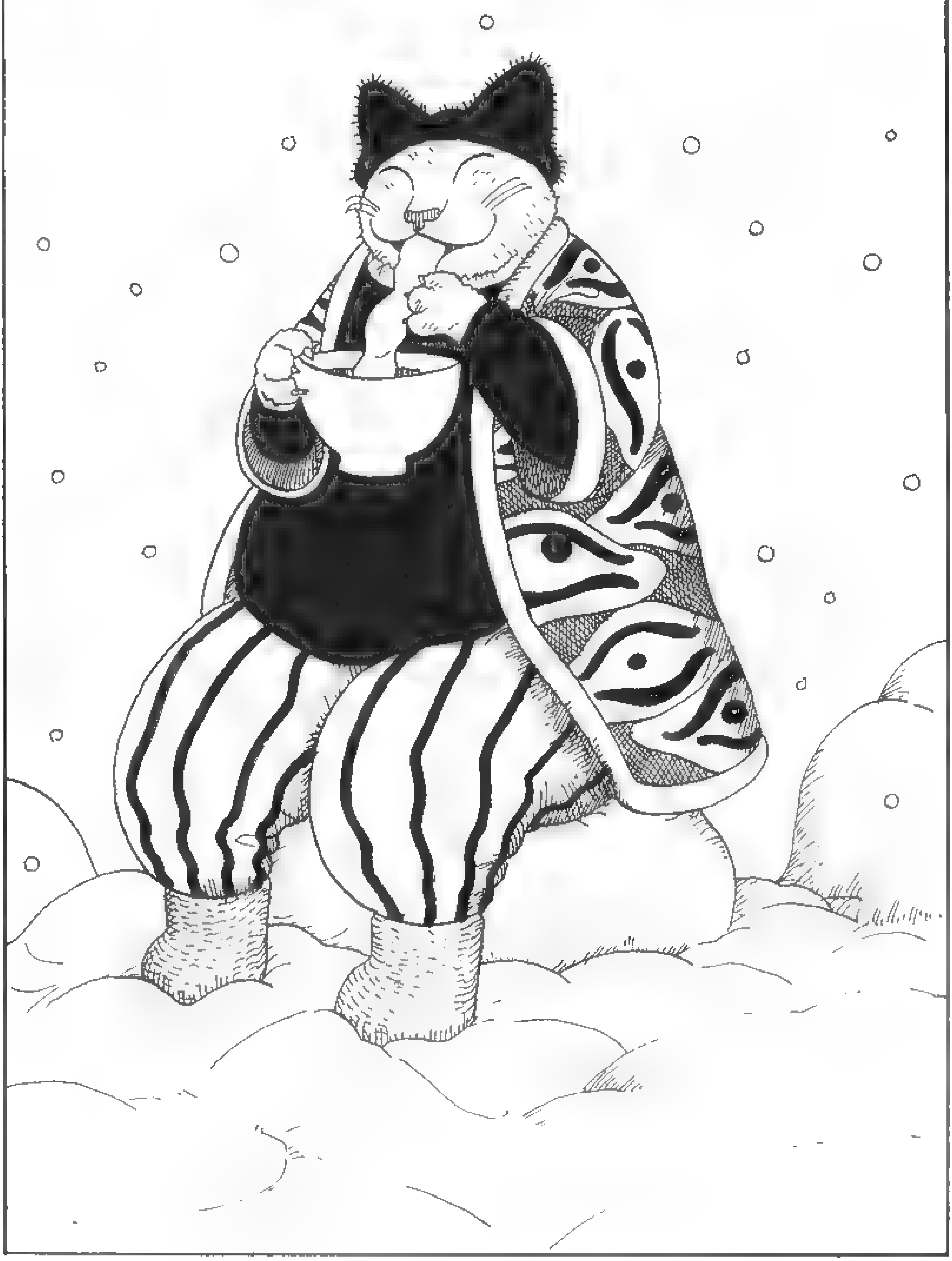

あっ
これは…


うっ
温泉の湯だぞっ
スゲエッ
トリキリ・トウ鳥って
地下の湯脈を移せるのか…
偉いぞっコンタ
…しかしよォ
湯といっても白いのや茶っぽいのやいろいろあるんだねえ
地下の鉱物が溶けているからさ
ああ……アタゴオルは


湯気の森なのよーっ
うーーっ……お風呂に入ったあの瞬間


それが
アタゴオル

第三話　悲しいような　新しいような




フーム
あいつかも知れないぞ
そーですね
もしもし そこのお方
ヨネザアド鳥類研究学会のポンゴ博士じゃないかね
いや オレはケッペ森のロリオリってんだ
あらソーっ 空見上げてるから鳥見てるんのかと思ったのよ……
雲を見に来たのさ
雲を!?


お主の森の空には雲が無いのかね
そりゃあるけどさ
オレは雲見屋でね
アタゴオルにはめずらしい雲が湧くって聞いたもんでよ
めずらしい雲?
ああ…ホラこんな形の
あっ
おんやあ
これって「ウドン雲」じゃないの
ほうウドン雲というのかい


えぇ
今くらいの季節に
ヒョッコリ浮かぶん
です
くーーっ
素晴らしい
見たいっ
ゼヒ見たいっ
ウドン雲なんかより
ウドン食った方が
んまいのにのう
そーゆーことで
ウドン10杯分で
銅貨20枚
ちょーだい
なんでオレが
おまえに払うん
だよ？
タダとは言わん
貴重な鳥を
見せてあげよう
貴重な
鳥？
そーよっ
ありがたい
鳥なのじゃ
ピッピロ
あ


バサッ
コンタ おまえ!?
でしっ
ぐっ
ずいぶん大きくなったなあ
エサがいいからねえ
ではワシらはチョッと失敬して
芸を磨きにっ
芸を磨きに?
ああ


会長っ ついに来ましたね アタゴオル
おお
しかし変な所ですねぇ
木からお湯が湧いている
こんな所だから幻のあの鳥も住んでいるのだろう
らっしゃい
ウドン2つ
ふーっ
ところで親父さん
スミレ博士のお屋敷はどちらだね?
なに…? スミレ!!



貴方たち
あんな男に
なんの用事
なんだね？
会長……
なんだか
評判の悪い
男のようですねぇ
うーむ
実はワシは
ヨネザアド鳥類
研究学会の
者なのだが
スミレ博士が
幻の鳥を
発見したというのでね
ニュッ
うっ
あっ
ドンブリが
ない
くっそう
オオッ


トリキリ・トウ鳥だっ
素晴らしい
なにが素晴らしいだよっまったくっ
毎日 お客のドンブリ取られて
めいわくきわまりないよ
あれ？
あの方は？
あいつがスミレだよ
ホントはヒデヨシってアホなんだが
さっコレ ウドンのお代です
えっもらっていいのかい



スミレ博士ーッ
私ヨネザアド鳥類研究学会のポンゴですっ
ほほほっ
よくゴザッタのう
つるっ
ヒロベエベエ
……
あっ
鳥がっ
やっ
どーーも
スミレです
会長のポンゴです
フッコです
ふう



あれっ ヒデヨシだ
そ〜〜おなのよっ
ええっ
それじゃこのお湯を噴き出させたのもトリキリ・トウ鳥なんですか!?
そーそーっ みんなコンタのせいなのじゃ
素晴らしいっ 素晴らしすぎますっ
ところでコンタはスミレ様にとても懐いているようですね
いかにも奴の卵を山中で見つけた時に
これは貴重じゃと持ち帰り
猫肌で温めて孵したんじゃ
ウソばっかり



胸にしみるような行いです
学会といたしましては
スミレ博士に今年度の「天上翼賞」と名誉会員の席をさし上げまする
うぇ〜っへっへっへ
ところで私たちもコンタを近くで観察してみたいのですが
よーござんす
一席もうけましょう
ほーら ほーら
ドンドンもって来てぇ
んまいねい
黄金ウニはよォ
会長…これはていのいいタカリてはないてしょうか?
まさか


まさかではなく
タカリです
あの鳥を
見たがるほど
タカられます
ええ
テン・パン組
め〜っ
よけいな
ことを〜っ
これで
数日間
食いまくろうと
思ったのにい…
フン
タカリとは
失敬な
ピッピラ
ピホピホ
ザ
ン
あっ
オオッ
では……
行くぞ
コンタ



はーい
チン
タコのマネーッ
チン
ケッピロケッピロ
くねり
くねり
ぐっ
うくっお客さんの拍手がないわよコンタ
もっともっと羽根をねじるのよ
チン
チン
ダメダメそんなんじゃ夕食ヌキだぞ
やめろなにやってんだ
貴方はこの鳥がどれだけ貴重なものなのかワカランのか!!
もちろんわかっております
しかし


貴重貴重とさわがれるのはホンのつかの間
芸を磨かなきゃこの世間は生きていけないのじゃ
なにを言っているんだっ 芸事と鳥を一緒にするな
コンタはお主といると不幸になるのは明白 ワシラの学会で保護したい
どうか渡してくれ
渡すわけねーべよ
だいたいエサだってオレの手からしかもらわないのよ
すり
すり
ホーレホレ
おまえの好物のシメ鯖だよーっ
ジャーン


こらっ
コンタ
ほほほ
どうです
鳥の大好物
ウニの実草だよ
あれっ
ん
んめ〜
んめえよォ
コンタ
最高
だよォ
なんだ
これは…
鳥に餌付け
されてるんだ
こんな生態
見たことない…
そーっと……


ウーム…仲良く寝てますなあ
無理矢理引き離すわけにはいきませんねえ
変な芸など教えなきゃイイんだが…
ところで会長さん
トリキリ・トウ鳥のトリキリは鳥霧山のことでしょうが
トウ鳥のトウはなんのことなんでしょうか?
色んな説があります
山の登頂を意味してるとか……


ぐい
ペコッ
翌日の午後
新曲ですよ
すごい腕前ですなあ
あ〜っ
どうしました雲見屋さん


やったっ
ウドン雲だ
ほう
これがウドン雲
こんなに
クネクネと
実に
素晴らしい
素晴らしいのは
私の新曲っ
ホラホラここから
山場がググッと
おっ
見つけた
ぞっ
コラ会長っ
コンタをどこへ
やったっ
えっ
コンタなら
貴方の家に
居るんじゃ…？
今　起きたら
居ないのよっ


口笛吹いてもぜんぜん来ないのよォ
変だなあ
おまえが口笛吹くとどこでも急に現れたのに……
ら
そうなんだよ急に現れる…
なっ
…なんて不思議な音色と…旋律
どうしてヒデヨシ君の胸から？
あっ
おおっ




あっ
消えるっ
あの鳥は消えていくぞっ
そうかっ
トウ鳥のトウは
透明の透だ
なるほど
それにしてもこんなにたくさん生息していたとはっ
コラーッ おまえたち いったいどこへ 行くのよーっ
南へ向かっているから たぶん雪の降らない所で越冬するんだよ
素晴らしい…
素晴らしい旋律です



鳥たちにしか聞こえない
旅立ちの旋律を
ヒデヨシに
聞かせてるんだな
あっ
コンタ
春になったら
また魚屋
襲おうぜい
ピッ
小さい頃から
渡り鳥たちが
こうして空を
かけていくのを見ると
なんだか
悲しいような
どこか新しいような
気持ちになったけれど
それは
オレの中に



第四話　テルウテ①




どげもぐりいっ
声はでかいけど才能ないよ
あきらめたまえ
だーーれがあきらめっかよおーーっ


「ど・げ・も・ぐ・り・い」を
いっぺんに叫ばなきゃ
だめなんだよ
んなこた
判ってる
わよ
にっふっふっ
あっ
それ
毒マリモ
だぞっ
心配
無用
カーッと
熱くなるのさ
口の中
ガリ
ガリ
普通 ひとかじりで
死ぬよーまったく
くーっ
来た来た
いいいいかあ
とと時王お
痙攣する
口ちちでで


あっ
凄いっ 叫べたっ
どうだう 毒食っても やるときゃやるぜ
フフッ…でも 鉱呪文が できたからと いって……
ホーラ 落とし穴の呪文 成功──っ
そんなっ… 鉱呪文だけでは!?
ズズ
わっ


ヒデヨシ君
まさか?
ほっほっ
ほっ
あっそれは
家宝の
「紅聞々」
紅聞々!?
そんなものを
胸にぶらさげて
いると
胸に穴があくぞ
チクッと
するけど
平気だよ
返せよっ
僕がオトナに
なったら
使うんだから


あきたら返してあげるわよ
穴あいても助けないぞ
大変ですヒデヨシくーん
借金取りが来たのか?
スミレ博士に原稿執筆の依頼ですよォ
ほんとかよォ
ギリムリアの豚旅団書房…
ホッホホ依頼なのよ〜〜〜っ
カタツムリ社の親戚じゃないの
「貴方の詩『プルプル』に輝くものを感じ次作をお願いします…」
「プルプル」ってどんなのだい?



読みます
「夕ぐれの空を見てたらタコが食いたくなったのでひとおどり」
「そーれっプルプルモッチャラ クッチャラテルウテ ドラドンプ」
最低ーっ
こんなものに感動するのかなあ
テマ・テン組なんぞに判るわけないのじゃよ
詩猫の世界は深いのよおお
1つでたくさんなのに…新作依頼かい
3日後原稿取りに来るのよォ
3日後
苦しい…


なにも浮かばねよォ
博士
今日が約束の日ですよ
ダメだヒデ丸
逃げよう
なに言ってんですか
…では作戦を…
「目先のタコ」作戦
うう
ホラがんばって
詩が書けたら
食えますよ
なにやってんだ
文学と食欲が
ごちゃごちゃだ
うう
よっ
よっ
「ヨダしたらりん
タコゆらりん」


「食いたい気持ちは パクパクりん はあツレツーレ モッシャカ ブッコ テルウテ ドドラ」
完成ーっ 完成なのじゃ
これも即興詩なのかい
私が聞いても ヒドイものだと思うぞ
ツキミ姫やテンプラや テマリなんぞに ワシの詩の深淵が のぞけるわけがない
脈旅団書房の ような御方は 眼力があるのよ
脈旅団書房か どんな奴 なんだろう
んっ
あれっ
あの方たち


脈旅団書房です
スミレ博士はどなたかな?
これが出版社?
銃持って原稿催促するのか
おおワシじゃワシがスミレじゃよ
団長の「鉄砂」です
貴方の詩大変興味深く読みました



鉄ちゃ〜ん 判るかっワシは うれしいぞォ
待てっ
その酢ダコ 遠ざけてくれっ
私は酢ダコが 大嫌いなんだ
フウーッ 残念じゃのう 友情の証と して一緒に かじり合おうと 思ったのに
「…はあソレソーレ モッシャカプッコ テルウテ ドドラ」
聞いている だけで 恥ずかしい…
フッ
そうじゃ 原稿が 上がったぞ ヒデ丸っ
ぜひ お聞かせ下さい
素晴らしい
大意を お聞きしたい


「プルプル」でも 今回の詩にも 使われた「テルウテ」 これはどういう 意味なのか？
それねっ 口から出まかせ なのよ〜〜〜っ
なに!?
「ドラドンブ」「ブッコ」「ドドラ」 これらは!?
みーんな 出・ま・か・せ
おいデブ猫 痛い目に 遭いたいのか
おんや？
諸君ら ワシの詩を 脅迫しに来たのかね
ほっ
鉱呪文かっ
あっ


テマリちゃんと親方っ
2人を痛い目に遭わせたくなければ本当のことを言いたまえ
親方はいい奴だがあの女はガツンと痛い目に遭わせてくれっ
ガッ
なんだと？
ヒデヨシなに言ってんのよォ
団長――っオレが一発で吐かせますぜ
決闘かい受けてやろーじゃないの


いいだろう ナバ 相手してやれ
私がやるまでもないでしょうに……
そーですよ オレにやらせて
ナバのベルトでは短くて巻けないよ
ホーレ しっかり巻けよっ
うるせえ デブ猫
凄い決闘ですよ
テンプラ君 どっちが勝つと思います
ヒデヨシが絶対負けるさ
甘いぜっ どんな手を使っても勝つのがオレなのさーっ
さーっ 本当の正体を現す時が来た
メガネと付け髭をとったオレ様こそっ ヨネザアド大陸で一番の早撃ち猫 ヒデヨシ君
行くわよっ ナバちゃん


いつでも抜きな
行くぜ
ぐっ
バチッ
いっ
みっともなさすぎ
丸腰なのよ
丸腰を撃つのかよォ
戦う私が哀れだ


おんぼろなベルトしてんじゃないよっ
やかましいおまえがデブすぎるんだよ
色んな奴を相手にしたがおまえのようなみっともないのは初めてだ
やり直しだぜ
来い悪党
やかましい
早いとこ抜きな
え〜〜と……
あっ



こいつ 銃呪文を!
勝利はっ オレの手に
この
卑怯者
がっ


頭に直撃ですよ死にましたかねーっ
あれ……
ポ
アアシャベリチエ
ナンデモシャベルワヨオ
それじゃあ話してもらおうか
「テルウテ」という言葉……どこで知った？
てんぷらノ机ノ中ニ甲虫ノ佃煮マイタノハおれデス
ソレカラぱんつノ大切ナ本ヲ売ッタトミセカケテネエ
おい質問に答えろっ「テルウテ」をどこで知った？


ソレガ知リタキャ金貨100枚ヨコシマショーッ
なんだと
自白弾をうけてもこんなタカリの言葉を言うなんて!!
いったいどういう神経してるんだ
くそっ
うわ
ズ
ズ
なんて力だっ
おりゃっ



テマリ助け賃
ウドン10杯
パッ
紅マグロ
10本
10本
!
唐あげ丸さん
唐あげ丸氏とヒデ丸の
命を助けたければ
ギリムリアまで
来い
なに言ってんのさ
ヒデ丸なら
そこに……
いるべよ



あっ
これは粘土だっ
ボーン
ヒデヨシ
這いつくばってすべて話せば済んだものを……
フーム……
そうよっ アンタなんで正直に話さないのよ
だーから言ってるべ口から出まかせだって
自分でも憶えていないなにかか……
翌日
せっかく作ってもらったスミレ博士用の別荘だが
ツキミ姫と時王が組むと
凄いなあ



キキキ
バキッ
キッ
バキキ
鉱物製の桃色リンゴ丸なのよーーっ
よーし
みなの衆
我々はギリムリアをめざすっ



脈旅団をぶちのめし
唐あげ丸とヒデ丸を救い出すぜいっ
おう
カン
出航なのよォ
イエーッ ぶちのめすのよ〜〜っ
そーれっ ブッタラコほーれ テルウテ やれうて
テルウテ!?
!
時王「テルウテ」ってなにか知ってるのか!?
確か……伝説の中の言葉で その意味は


「絶対錘物」

第五話　テルウテ②




絶対鉱物!?
時王 それってどういうこと?
鉱物界の古い言い伝えでそんな意味だと聞いたことあります
どんな鉱物なんだろう
脈旅団の鉄砂たちはその鉱物を……
たぶん探しているのでしょう
その前に
オレが探しちゃうわよーっ
ドスッ


絶対鉱物
絶対探す
タッ
あらん
ドラネコ団なんで船に乗ってるんだ?
フン今ごろ気づいたのかバカヤロ
バカヤロとはなんだ オレは桃色リンゴ丸の船長だぞ
なにが船長だおまえの命令なんか聞かないぜ
そーそー
でもテマリの命令は聞くこともある
まあうれしい
ところでなんで船に乗ってるのよォ



磨あげ親父とヒデ丸を助けるためさ
さては助けてお礼をもらう気だなァ……
おまえとは違うぜ
磨あげ丸はいいやつだから助けるのさ
お礼なんかいらないよ
偉いねえドラネコ団は
おまえもたまにはタダで助けてみなよ
タダでだとォ
胃袋が脳ミソを動かしている奴には無理な話だろう
コン
どーぞ


見せたいものってなんだい？
これだよ
脈旅団の銃の弾丸を分解して調べたんだが
いろいろな花粉が混ぜ合わせられているんだよ
へーっ
これが体に入ってペラペラと自白するのか
あれ
この銃は植物製だから
設計葉脈を見つければ栽培できるんだ
す



凄い
あんたたち
ねえ
大食い比べしてるんじゃないんだから
いーかげんにしなさいよ
食料が
すぐに
無くなって
しまうよ
べーーっ
ドンブリ8杯も
食ってなにが
ひもじいだよ
……それにしても
どうして
ヒデヨシが
「テルウテ」って
知ったんだろう
あ〜っ
テルウテ
テルウテ
ひもじい
よ〜っ
ねえ
ヒデヨシ君


「テルウテ」って言葉だけを想ってごらん
テルウテ……
うっ
どうしたツキミ姫
こんなにきれいに憶えていないなんて……
大バカなのねえ
なんだとお
あっ
…来た
来た?
ホラ


あれっ
これは僕が
作ったスミレ博士の
家の中だ
あの感じは相当
酔っぱらってるな
ぜんぜん
憶えてない
わよーっ
スミレ博士の
格好して……
騒いでいて……
それで
あの言葉を?
2日後



まーだ着かないのォ
ギリムリアは遠いんだよ
じゃーーん
かっこいいべ
ら
どうしたんだそれっ
おーっ
コレか
銃が生えてる
弾丸も作ったけど
でも当たったら苦しいぞっ
フエフエ


いい感じなのよ〜っ
勝負師なのよォ
おい ドラネコ団 オレと勝負しないか
いいだろう なにを賭けるんだ
オレが勝ったら ドラネコ団はオレの子分で 今日の晩飯オレのもの
いいだろう オレたちが勝ったら 晩飯と船長の座をもらうぜ
よーし
3対1じゃ あんまりだから 尾っぽジャンケンで ひとりに決めろよ
おうし
尾っぽ振り 雨降り フリフリ
ポン


ゲッ
ハイ
カツラの勝ちね
ゴッ
決闘よっ
決闘なのよーっ
ツキミ姫の作った銃ってどんなんだろう
わくわくします
カツラ対ヒデヨシかあ
負けますよォ親分
うーっカツラじゃなあ子分かよォ…
では私が立会人をします
10歩歩いたら撃って下さい
1つ
2
3
4


5
クルッ
ザッ
ザッ
6っ
あっ
7
8
クルッ
ドン
ぐわっ
ビッ



勝ったっ勝ったぞっ
きたないぞヒデヨシ君
カツラもきたないがヒデヨシはもっときたない
この勝負カツラの勝ちです
……ほっ
ホホハハハハ
ウハハハハハ
ゲヘヘハハハッ
ヒダ
「ゲラゲラ弾」が効いてきた
ゲラゲラ弾!?
ハハハ
このやろ
ハハハ
ドッ
ギリムリア



くっ
どうしてコレが通りぬけられるんだっ
ああ
鉱物製の部屋にとらわれている感じがせつなく新しい旋律……
わっ
唐あげ丸氏見事な旋律ですな
お誉めいただきありがとう
こんな狭い部屋へ幽閉して申し分けない
私はバイオリンさえあれば平気です


確かに聞き惚れるよ
ギリムリア中 探してもお主のような名手はいないだろう
ナバさんありがとう
でも…アタゴオルのみんなは本当に私たちを助けに来るのでしょうか？
君の仲間は船を造った
だが船の一部となっている天満星座石は 鏡となって
この画眼水晶に映るのさ
へーっスゴイですねえ
君たちを追って河を下るみんなの姿を見せてやろう
心配してるんだろなあ
うっ


なにこれ
みんな
笑ってる
あんなに…
わっ
私のことなど
どうでもいいんだあ
ミギャアア
親方っ



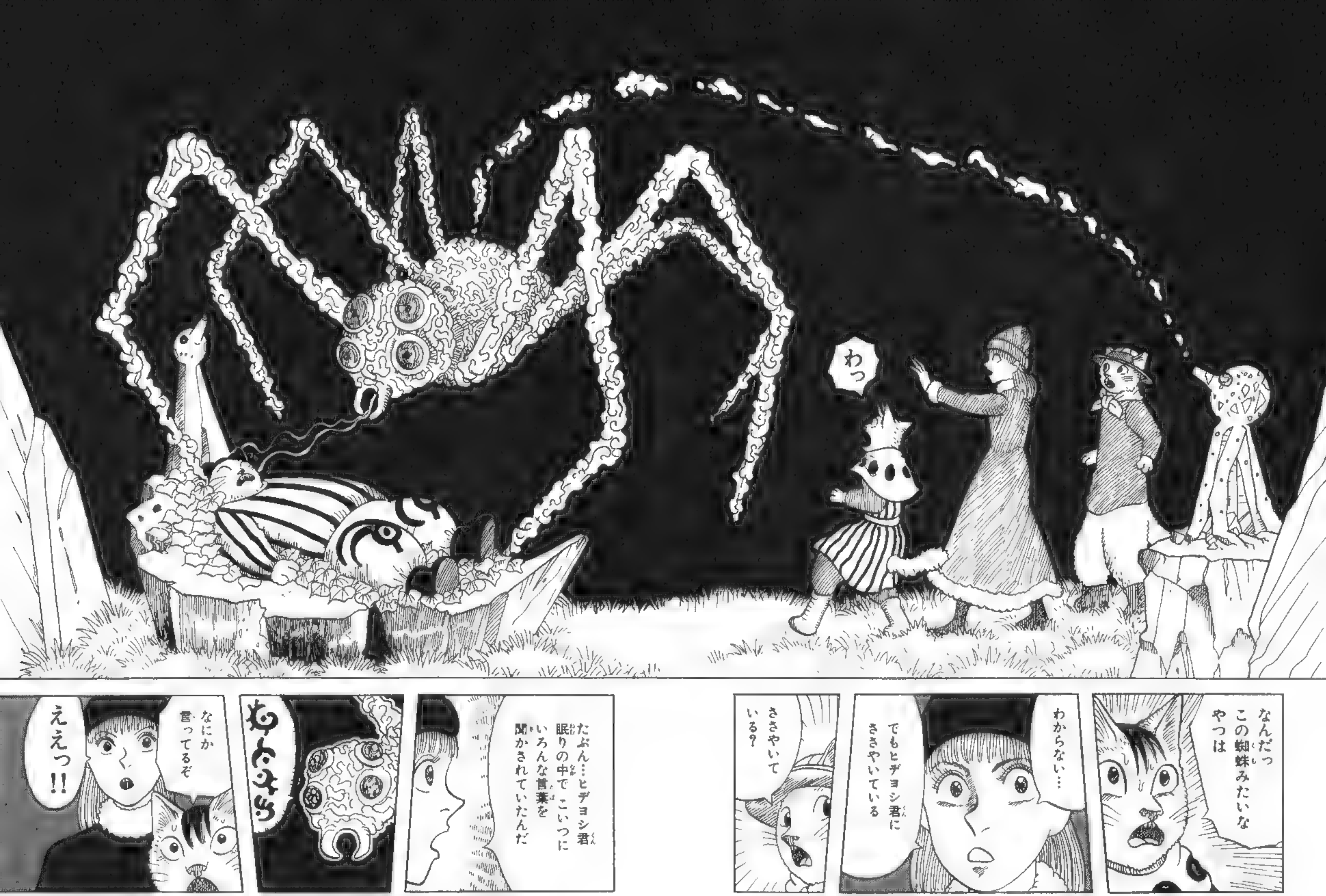
まったく
最低なやつら
だな
最低なのか
それとも
普通じゃないのか
特にあの
ベルト破りの
デブ猫
ウハハハ
船長だぞ
ハハハ
くっすおお
ウハハハッ
腹痛てーっ
ああっ
ゲラゲラ弾って
苦しいなあ
よーし
カツラ
おまえがリンゴ丸の
船長だぞ
ゴッ

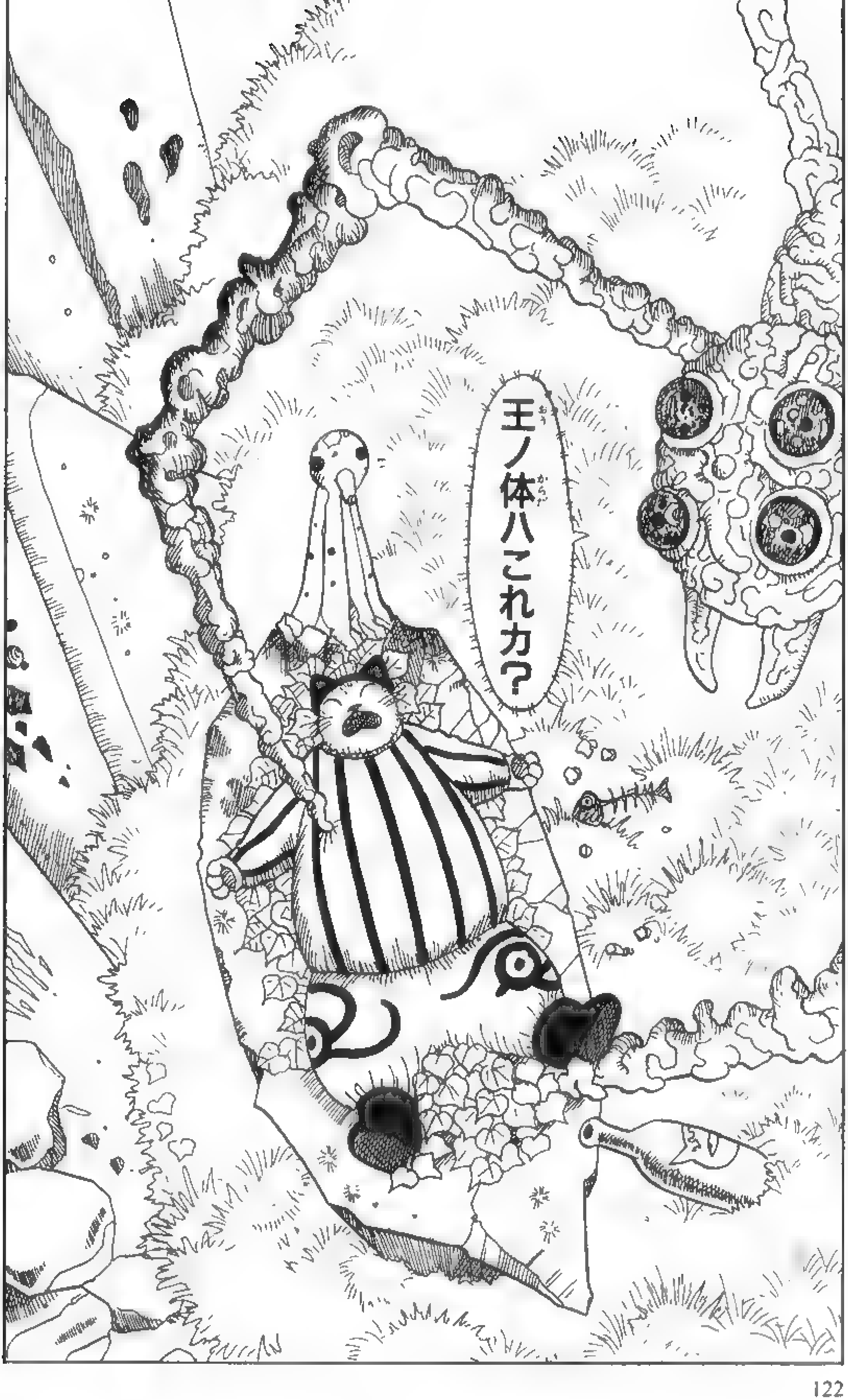

ハーッくやしや
くやしやムカムンムン
ダン
ダッ
ヤケ起こしてるな
アイツ
どーでも こうでも
エンパラ・ビッダダ
ほう
エンパラ…
ビッダダ
パンツ
記録して
るのか!?
ああ…
どうも気に
なるんでね
謎のヒデヨシ語


ヒデヨシ君とドラネコ団が寝ると静かだなあ
……なあ時王
なんですか
ヒデヨシの記憶にあったスミレ博士の鉱物部屋って……今どうなっているんだい？
あれはこの船の一部になっていて……
たぶんヒデヨシ君が今いる部屋ですよ
…フーム……
そおっと行ってみないか
カチャ

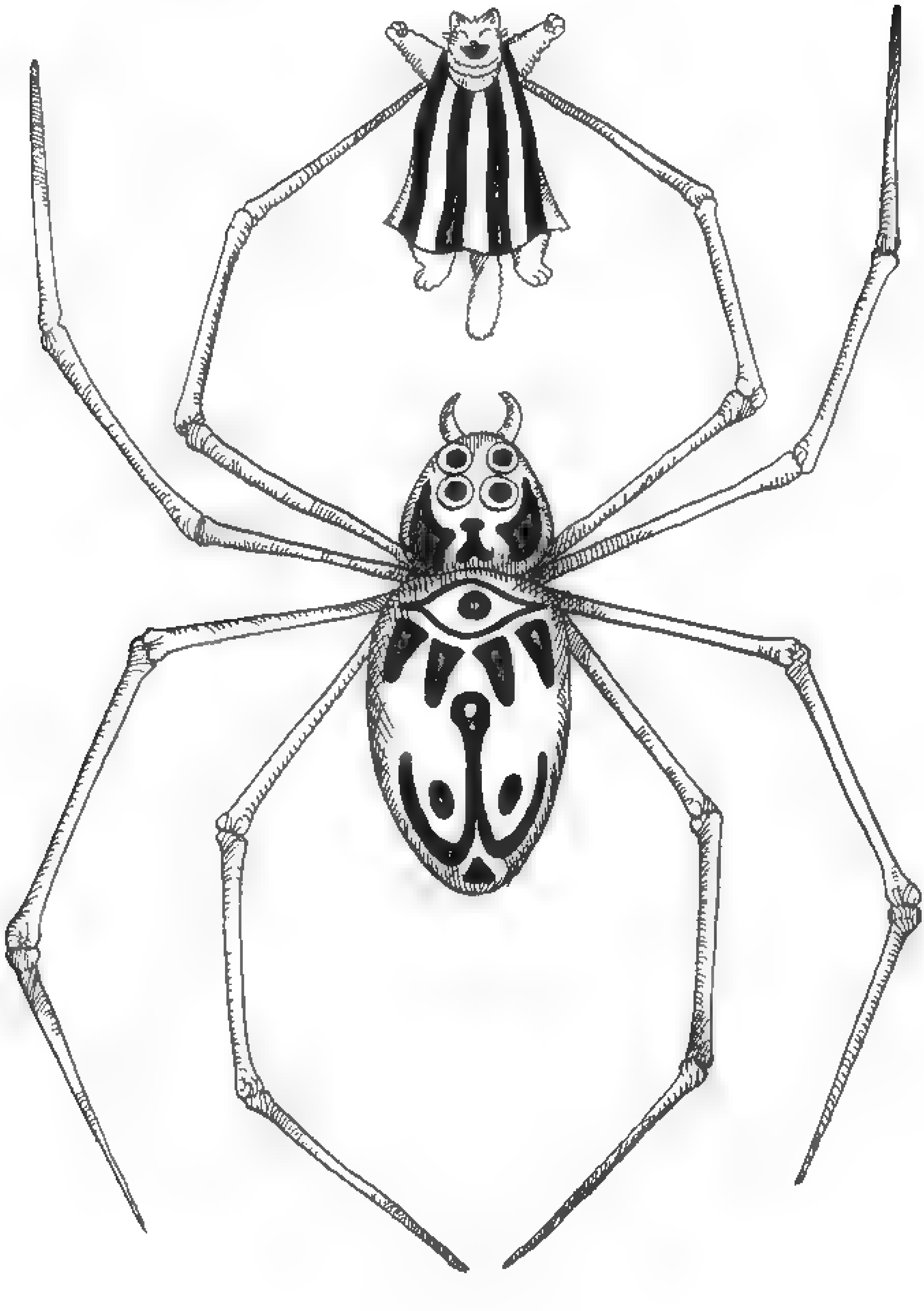

ぐ〜〜っ
熟睡だな
倉庫の酒早くも1本盗んでる…
…コ…コトン…
ふふ
寝言だね
あっ
これはっ


どうかしたのか
ツキミ姫
このタコの
鉱物
どうしたの？
スミレ博士の家を
造る時
ヒデヨシ君に
たのまれて
作ったんだよ
青い
グッバン石に
赤と橙の
流星輝石を
合成させる技が
できるのは
まあ僕くらいなもん
ですよ
このタコが
どうかしたのかい
いい
みんな
!
うっ


わっ
なんだっ
この蜘蛛みたいな
やつは
わからない…
でもヒデヨシ君に
ささやいている
ささやいて
いる?
たぶん…ヒデヨシ君
眠りの中でこいつに
いろんな言葉を
聞かされていたんだ
なにか
言ってるぞ
ええっ!!


王ノ体ハこれカ？

第六話　テルウテ③




ギリムリア
脳離崎を 通れば ギリムリアは 近いが
奴らは 迂回するだろう
どんな荒くれでも あの崎には近づかない ですぜ
迂回しないで 崎に向かうような 気がする……
そんな!!
んっ


どうした
ナバ
なにか感じるのか
……
蜘蛛がボンヤリと
判りません
一瞬浮かんだのです
蜘蛛!?
蜘蛛って
まさか
「導きの蜘蛛」か!?
桃色リンゴ丸
王ノ体ハこれカ?
つんつん


「王の体はコレか!?」って言ってるぞ
ええっ
王がヒデヨシってことか？
ホウ 娘 予ノ言葉ガ判ルトハ…
王とはなんなのだ？
絶対鉱物ニフレルコトノ出キル者コソ
王ナリ
絶対鉱物にふれられる者が王!!
貴方はいったい何者なの？
予ハ導キ試練ヲ見ル者…扉ガ開カレタカラ来タマデノコト
扉？



青ノ夢石ト
赤ト橙ノ星糸石ノ
合体コソ扉
ソレニシテモ
何度ヤッテモ
こやつ憶エガ
悪スギル
娘ヨ
オマエガ
受ケトレ
うっ
シュッ
あっ
ツキミ姫
ス
スーッ
スル
スル
スル
ツキミ姫
だいじょうぶか


テルウテ・ドドラ・ブッコ・ドラドンブ・エンバラ・ヒッタダ・ジュドリ
ソムソラ・ブルギン・アンバジア…
おおっ
ヒデヨシが切れ切れに言ってた言葉がっ
ソムソラ？…ブルギン？
ブラムロ・ブラムレ…
……ふう
蜘蛛の糸文字か…意味不明だけど
こんな長い言葉ヒデヨシが憶えるわけないなあ
ぐ〜っ
ところでツキミ姫「扉」ってなんだい？
あの蜘蛛が言ったのよ



「青の夢石と赤と橙の星糸石の合体こそ扉」
えっ
夢石は古代鉱物語でグッバン石 星糸石は流星輝石のことだよ
それじゃコレがあの蜘蛛を呼んだのか
はいはいタコさんお呼びですか
ら
タコが…服着て…パンツになってる
寝ぼけているね
こんなのが王の体なわけないだろう
翌日
なにーっ


遠回りするだとォ
まもなく合流するウミヒキ河をさかのぼればギリムリアは近いけど
途中に伝説の脳離崎があるんだよ
脳離崎？
なにそれ？
その崎を生きて通過した船はないんだよ
凶暴な海賊蜂猫団は崎に近づいて全滅したんだぞ
ほほほっ そんなことでビビるおれだと思うのか



桃色リンゴ丸はすえーったい通りぬけるのよっ
そーだろうカツラ船長
オウッ
ドラネコ団はつっこむぜええ
アンタたち馬鹿じゃないのっ
なに考えてんのまったくっ
多数決で決めましょう
…それでは脳離崎を通過するのに賛成の者 手を挙げて
オーッ
ガオッ
はいっ
うう
5対4で突撃決定かあ



ヒデヨシやドラネコ団はしょうがないけど時王 アンタまでどうして!?
僕逃げるの嫌いなんです
偉いぞ時王
誰も通りぬけられない崎か…
なにがあるんだろう
つっこめえぇ
ゴッ
ヒデヨシと一緒でまともな旅ができるわけないんだよなあ
パンツ君
昨夜の蜘蛛の言葉もう一度言ってくれますか
いいよ
脳離崎がなんぼのもんだあ
…リムリラ・フルギン・アンバシア


やっぱりそうだ
ソムソラとブルギンは鉱物の古い呼び名です
えっ
確かこの辺に
ほら これがソムソラ「精残水晶」です
うっ
どうしたツキミ姫?
水晶に蜘蛛の印が半分だけ
えっ…どこ? 僕には見えないよ


時王ブルギンってこの船の中にある？
ブルギンは後ろの赤いやつ
あっ
蜘蛛の残り半分が写ってる
どういうことなんだ？
2つの鉱物を合わせろってことか？
イエ〜〜〜ッ君たち なにやってんのォ
くくっ 重い
石を調べているんです
あーら それ
蜘蛛の絵がついてるな


えっ ヒデヨシ 見えるのか
うすボンヤリとだけどな
さてはその蜘蛛の絵が寝てるオレにイタズラしていたのか〜っ
もうちょっと左に……
こう？
どういうことだ
普段のヒデヨシ君なら 見えないはずなのに……
合ったぞ ピッタリだ
ピッ
キッ


なんだっ
これは？
判ったぞっ
これは
イスです
でん
イスじゃ
ないだろう
タイコ…
かな？
鉱物製だよ
音なんか
鳴るのかな
ペタペタ
ダメだね


いったい
なんなんだ?
こいつっ
やっぱり
イスよ
ポン
ら
あ〜っタイコよ
やっぱりタイコ
テンプラ
才能ないのよっ
よーし
意外と叩ける
パンツ君の腕を見せて
あげまする
いざ
ペタッ
あれっ…
なんでだ
はい
ハズレ
お帰り
下さい
よーし
オレは
船長
音出るぞ
ゴッホホ


あっ
ペタ
おっ ツキミ姫
ポー
カツラしょぼすぎて船長クビーッ
ゴッ
凄い
このタイコ
なんかの能力に反応してるんじゃないか
してるのよォ ホレホレ 能力 たっぷりこ
ポン
ドウヤラ コノ船ニハ


王ノ体ガ
3ツ……
脳離崎
来たわよ
脳離崎っ
桃色リンゴ丸は
通過してみせる
のよ〜〜っ
こっけな霧に
だまされないでぇ
……
あらん……
やけに静かだな
うう
なんだ
この気配


水の底がオレを呼んでいる……
えっ
この世界は冷たく
水底こそ温かい
さあ飛びこむのよ
テマリちゃんだめっ
トン
うっ
ヒデヨシ君早く テマリちゃんを巻きづるでしばってっ


なにをする
デブ猫め
このやろ
命の恩猫に向かって
テンプラ君
だめよっ
パンツ
おまえまでどうしたのよォ
離せっ
その臭い手っ
ほんじゃ離してやるぜ
もう!!
ヒデヨシ君!!
うっ
だって臭い手なんて言うんだぜえ


臭くてもいいから その手で早く しばりなさい
へーーい
あーっ臭い臭い
心まで臭い
おめーらあ
さーっ楽しい水の底ーっ
行きっまっしょ
飛びます飛びます
ゴヘッ
ふう…
うっ
なにカガ
私の意識に入ってくる…



…水こそ…都なり
ら
ツキミ姫まで……
なにやってんのよ もーーっ
ポー
うっ
あっ……
う
なんだ あの ボンヤリとしたのは?
ヒデヨシ君 もっと叩いて みて
おりゃ おりゃ
なんだろう あの青白いの?
そうか… あれは


死者の魂だ
タン
タン
タン
あのタイコの音が嫌なんだな
脳離崎でみんなが死ぬのはこの魂たちのせいだったんだ
タン
憎しみと怨みが青白く輝いて
ヒデヨシ君に入りこもうとしてる
あれ
タン
ゴッ
うわっ
タタ
やっぱりヒデヨシ君は王様かもしれない
だって怨みと憎しみの固まりたちが


ほほ笑むんだから
タンタタ

第七話　テルウテ④




凄いなあ
脳離崎を
通過したぞ
みーんな
オレの力
なのさーっ
おまえの力
だけじゃ
ない
そのタイコの
威力だよ
確かに不思議な
深い響き……
パンツ
見かけ
ないな
船室で
ナゾの言葉
調べているよ



イエーッ ジャマしちゃおっ
うるさいなあ
タタン
連打
なにやってんだよ おまえ
あっ
弓水晶が熱くなってる
シュー
どういうことだ?
ヒデヨシ連打中止
ぴっ


あれ
湯気が止まった
タイコの音に反応してるんだ
さすがあの蜘蛛の模様がついていた鉱物で作られたタイコだね
絶対鉱物とこのタイコどんな関係があるんだろう？
クーーッ気に入ったぞ
タン
タタ
おっほっほっほっ
ら
「タンタタ」と打つと


煙吹く
他のリズムじゃダメなんだな
あっ
リズムの強さで形が変わっていく
アハハ
タコちゃんなのよーっ
うるさいぞ
甲板の野原で騒げ
へーい
ヒデヨシ君
船底にたくさん弓水晶があるぞ



よーし
船底で
連打
なのよーっ
ドスドス
蜘蛛が残した謎の
言葉
解明できそうか?
へへへ
少しな
さすが
パンツ君
少しでも
凄いぞ
あの言葉は
語感からすると
カラパル古語に
似ているんだが
それだと
「ブラムロ・ブラムレ」は
「3・4・3・5」という
数字になるんだ
3・4・3・5?



おーい 昼飯だぞオ
凄いよ ヒデヨシ君 もっとガンバッて
イエッ
おーい 昼飯だぞオ
おっ 休憩
あの女 ウルサイから なあ
時王 先に行っててよ
フフフッ ギリムリアに 入っている
心の準備を せねばのう
ヒデヨシ君 汗びっしょり
そのまま行くと テマリちゃんに 臭いって言われるね
着替えて行くから
ハイ
なんだおまえ その格好!?


私が
絶対鉱物を手に入れる王様
しかし衣装持ちだなあ
んめ〜〜っ
ポンポロ魚の炊き込みご飯
おい
ヒデヨシサジ使えよ
手づかみダメダメ
こーやってニッチャラとにぎると
一段とんめのよっ
あっ


岩が浮かんでる
浮遊雲母の固まりだっ
凄いっ
浮遊雲母!?
ええ
幻の鉱物!!
こんなに大きい固まりなんて…
ようこそギリムリアへ
脳離崎を越えてくるとは大した奴らだ褒めてやろう
昼飯時に来るとはご飯をタカリに来たな


コラ
鉄砂
鷹あげ丸とヒデ丸はどこだっ
おっ
さて
テルウテの意味を話してもらおうか
鷹ちゃんたちを返さないと教えないぜ
おまえは状況というものが判らんのだな
私の合図1つでふたりは圧死するんだぞ



テルウチとは「絶対鉱物」という意味です
こら ツキミ姫
おしゃべりな奴だっ
絶対鉱物だと…
なんという すばらしい響き
ところで おまえたち 蜘蛛を見なかったか?
蜘蛛が来てたのよォ オレが眠っていると やって来て
オレが王様だって言ったのさ
なんだと


絶対鉱物にさわれるのは王様だけなのさ
鉄ちゃんには関係ないのサ
蜘蛛はねなにかナゾの言葉をツキミ姫に教えたらしいのよね
バカベラベラ話すんじゃないよ
ほう……テルウテにさわれるのは王だけ
ほうナゾの言葉を
ツキミ姫聞かせてもらおうか
ヒデヨシッも〜〜〜っ
このおシャベリ猫
パンツだって解けないんだぜ
鉄砂に解けるわけねーべよ
話しますが
そのかわり唐あげ丸さんたちを解放して下さい


テルウテ・ドドラ・ブッコ・ドラドンブ・エンバラ・ビッダタ・ジュドリ
ソムツラ・ブルキン・アンバジア・ブラムロ・ブラムレ…です
ナバ 記憶したか
クッキリと
さあ 唐あげ親方と ヒデ丸返すのよ〜〜っ
いいだろう ただし
そのタイコと 交換だ
なんだとコノヤ
このタイコはなっ 蜘蛛の模様の水晶を合わせて出来た貴重なものなのよ
だから 渡してもらうのさ


う
甘いな
鉄砂
ジャーン
爆烈火薬玉
ホーラ
早く唐ちゃん
返さないと
火つけるわ
よ〜〜〜っ
爆烈火薬玉
だとっ
離れろ
なんで仲間が
逃げるんだっ
貴様 くだらない
おどしはやめろっ
鉄砂様
おどしでは
ありません



まったく
狂った猫め
ら
あっ
コラ
へっ
おおっ
コラ
どろぼう
タイコ
返せえっ
ホラ
返してやろう


ドドッ
ドドドッ
唐あげ丸よりタイコ返せっコノヤロッ
サラバでぶ猫
アタゴオルに帰りな
ぺっ
王様は帰らないわよ
唐あげ親方よかったな
別にくっ
どうせ私なんか
親方どうしたの?
親方ヒデ丸
だいじょうぶかいっ
みんなが楽しそうにゲラゲラ笑っていたのを見て怒っているのです



えっみんな
ゲラゲラ
笑ってたって
……?
ヒデヨシがゲラゲラ弾
撃ちまくった時じゃない?
時王
天満星座石って
どこにある?
正面の時計の
下の所にあるよ
どうかしたのかい?
鉄砂は
その鉱物を通して
甲板の風景を
見ていたんだよ
ええっ
親方はそれで
見たわけね
ド
よーしっ
これでのぞかれないぞ
しかし…ナゾの言葉は
まだしも あのタイコを
鉄砂にうばわれたのは
痛いなあ
私も
そう思う


ターーン
甘ーい
ターーン
あれっ
そのタイコ？
鉄砂が持っていったのは
さっき船底でクネクネ作ったニセのタイコさ
さすが騙し王
ヒデヨシ君船底でさっきの続きをやりましょう
ひょっとしたらひょっとするんです
オウ
ひょっとする？
タン
タ
イエーーッ
シューー



ねえ時王
タコ形の鉱物
なにか変わってきてない？
ああっ
やっぱりそうだ
始まるぞ
始まる？
ら
浮かんだっ
浮遊石に変化したんですよっ
天井にくっついてますね
コン
コン
コン
ごつ


わーっ
ザーッ
リンゴ丸が浮かんだあ
オオッ
どうなってるんだ浮かんでるぞ
ホラ この浮遊石のせいですよっ
船底いっぱいにあるんです



くーっこのタイコが作ったんだぜ
すんごいタイコだなあ
ザリザリ
……
ヒデヨシ 3・4・3・5のリズムで叩いてみてよ
あいよ
イエ〜〜ッ
タタタタン
3・4・3・5って蜘蛛が語ったナゾの言葉だろう
ああ
もしかしたらタイコのリズムかと思ってな…
浮かんだけれど止まっちゃったぞ
うっ
なんだこれは
ああ


凄い音楽!!
大地の鉱物たちが唄っている!!
なんなんだコイツらは
鉱物の輝きが集まってできてるみたいだよ
らっ
船が動き出した
この列にそっていくぞ
たぶんこの列の向こうに


に何かいる

第八話　テルウテ⑤




まるで
この船
鉱物界の
王様みたい
だな
絶対鉱物
オレのものォ
ああ
なんて不思議な
鉱物旋律
鉱物たちが
唄うって……
どういうこと
なんだろう
私たちが
気づかなかった
だけかも
しれないよ



気づかなかった？
うん
鉱物が持っている磁力や熱量が 旋律になって感じているような気がする
鉱物界の感覚に
オレたちが近づいたってことか…
しっかし妙な奴だな
リンゴ丸が通りすぎると
輝きの固まり消えていくぞ
ねえ この船 あの山に 向かってるな
地図によると
バッセル山
オオッ


森の中を指してるぞ
行けーっ
絶対鉱物が待ってるぜえ
フーム
あれっ
タンタタ
おんや?
タ


タコ様
最高
吸盤
ステキ
スミ吹け
スミ吹け
イエ〜〜〜ッ
スミ吹けっ
ヒデヨシみたいな奴が
いっぱいいるぞ
タコタコ
好き好き
音で
わかるよ
おまえイイ奴
オレは イイ奴
ヒデヨシ君
ら
オレは
パンプクレ
オレたちの村
おまえたち
歓迎する
ついて
来い


なんて
んまそーな
大ダコちゃん
ホホホその反抗的な
目玉がオレの腹を
ツンツンするぜ
生食い
してやる
食うだとっ
無礼者
これはワシらの
神様
「アンパジア」様だぞ
アンパジアって
蜘蛛の糸文字に
あった言葉だぞ
さては
このタコが
絶対鉱物の
ありかを
知ってるな
よーし
生かじりして
白状させてやるぜ
ゆるせん
火あぶりに
してやれっ
そやつは
アンパジア様の
恐ろしさを
知らぬだけだ


お若いの アンバジア様と 戦うのを 許可しよう
えっ 食っちゃって いいのォ
ただし お主が 負けたら 火あぶりの刑 だぞ
いいわよ
ヒデヨシ君 勝利します かねえ
あいつタコの前では 恐ろしい力 出すから なあ
おっほっほ 大ダコを ブチのめすために 生まれてきた男 ヒデヨシ君
タコさーん がんばってーっ
ヒデヨシ 負けろ
大ダコ がんばれ
あっ
おほほほ
あーーっ 眠り花粉 まいてるっ ズルイぞっ


なんて
キタないマネを
堂々と
勝負しろ
んなもん
なにやってても
食えれば
いいのよ
生食いの
始まり始まりっ
アンバジア様
しっかりーっ
やめろ
ヒデヨシ
食ったら
絶対鉱物の謎が
解けなくなるぞっ
足の2、3本
食ったって
死なないぜ
では いただき
まっ
わぷう


ぐえ
ザバーッ
ビタッ
強い……
助けてくれえ
もーっ食ったりしないからあ
焼き猫 焼き猫 天罰だーっ
タタ
タン
どうやら本気で火あぶりにする気だな
神様を冒瀆するからだよ


コラーッ
みんな頭が高いぞ
土下座してオレの命請いをしろーっ
なに言ってんのよ悪いことばっかりして
アンタはいっぺん火あぶりにならないとわからないのよ
くっすおお
こうなったら
あーーっ
コイツ小便してんぞっ
たき木をしめらす気だな
いきおい良すぎてハズレてるぜ
ジョーーッ
恥も外聞もない必死の抵抗だなあ
心にグッとくるものがあります
ら



ニセのタイコ 返すぜ
助けてくれ 火あぶりにされるんだっ
タイコでもなんでもやるから 助けてくれーっ
おまえのウソは 聞きあきた
オレもおまえの 火あぶり 見たいぜ
くっすお
どうせ 火あぶりに なるのなら 絶対鉱物の ありか教えて くれ〜〜っ
ズダッ
ぶ
絶対鉱物などという 言葉 聞いたことも ないぞ
らっ
チクッ
わっ…わっ
判ったぞ 絶対鉱物のありか 判ったぞっ



ええ ホントか
火あぶりを のがれようとしての 口から出まかせ だろう
ヒデヨシ…… うそ声では ありませぬ
そ――よっ 頭がチクッと したら 言葉が 湧いてきたのよォ
よーし 早く答えないと
焼き猫に なるぞ
ボッ
縄 解いてくれ 解いたら 話すわよ
先に答えろ ホレ 火落とすぞ
「ドラドンブに さわれ」って 聞こえたんだ
ドラドンブって 蜘蛛の残した言葉だ


ドラドンブとは
…この森の北にある赤い岩のことじゃぞ
北にある赤い岩か
絶対鉱物は脈旅団がいただくぜ
ボ!!
熱〜〜っ
あーーっ
あーーっ ホントに火つけたっ
こらしめようと思っただけなのに
助けてぐれえ
パチ
パチ
てやっ
ガッ


ぐへっ
くっすおっ 鉄砂の野郎
絶対鉱物はオレの物なのよォ
待てーっ
ヒデヨシ君 尾っぽが燃えてるよォ
それどころじゃないわよー
ドラドンブには誰もさわれない
誰もさわれない？
ああ
ついて来たまえ



オッ
あの赤い岩がドラドンブ
あの岩からアワのようなものが噴き出してるぞ
あのアワのせいで誰も近づけないのじゃ
あっ鉄砂たちが
なんだこのアワは?



鉄砂様
これ以上進むのは
危険です
なにか妙な
気配がします
絶対鉱物が
あるんだっ
危険などかまわぬ
絶対絶対
オレのものォ
ドスドス
なんだろう
このアワ
ああ
この先で
誰かが洗濯でも
してるのさ〜〜っ
ら
なにやってんだ？



誰だ？
私はなぜここに…？
絶対鉱物探しに来たんだろう
絶対鉱物？
おっほっほボケちゃったのね
行こうぜテンプラ
テンプラ？
おまえ…なんで笑ってんだ？
らっ
みんなボケちまったぞ
記憶喪失じゃよ


あのアワに近づくと記憶が消えるのだ
それで誰もドラドンブにはさわれないんだね
あの岩には言い伝えがあってな
誰かがさわると主が目覚める……とな
主が目覚めるって…… どういうことなんだろう?
もしかして
絶対鉱物が目覚めるのでは…?
イエ～～～ッ
絶対鉱物オレのもの～っ
主…!!
あっ
ヒデヨシ君がドラドンブに向かっていく


あのアワの効き目の無い生き物がいるのか
普段から記憶喪失のような生活してるからなあ
生きていくことはたくさんの記憶や想い出を抱えることじゃ
だがたいていのことは忘れてしまっていいことなのじゃ
あの猫は忘れることの大切さを知っている
この世界でたくさんのことを憶えるほど
なにか大切なものを忘れてしまう
いっけんただのバカ猫に見えるが
あのヒデヨシという者



一番忘れてはならないことを憶えている奴かもしれぬぞ
イエーーーッ 到着なのよー
にゃーーん
くへへへ これにさわれば
絶対鉱物手に入るのか
では
ペロ


あっ
ヒデヨシ君がさわったぞ
言い伝えは本当なのか？
主が目覚めるって…
ら
アワが出なくなったぞ
あれ……
ん
ヒデヨシがいないな
!
なんだこの感じ…
そして



絶対鉱物が目覚めた
キャーー
噴火だ
噴火
バッセル山が
うっ
絶対鉱物は!?


わっ
オオッ
出たっ絶対鉱物
やめろっ それはオレの物だ
鉄ちゃん オレの物なのよォ
いや



アタゴオルは猫の森4　おわり

ますむら・ひろし先生の最新情報はホームページ

「ごろなお通信」

をご覧ください。
イベントや新刊の情報、ファンと先生の
交流の場となる掲示板など、楽しみいっぱいです。

http://homepage1.nifty.com/goronao/



アタゴオル余波4

ますむらひろし

暑い夏がやってきた。汗っかきの僕にとって、この暑さのなかで原稿を描くという行為は、ほんとにツライ。クーラーが無かったら、原稿には汗がポトポト落ちてしまうだろうし、腕や手は汗ばんで、原稿がふやけるし、第一頭がボオッとして、考えなんて浮かばない。

僕の故郷・米沢は、野田よりも蒸し暑いところなのだ。盆地という地形は、ムワアと蒸し、昔はクーラーがなかったから、夏になると窓を開けっ放しにして蚊帳を吊り、扇風機を回して寝ても、暑くて寝られない。中学生の頃、あんまり暑い夜にたまらず、「そーだ、自転車で走れば、少しは涼しいかも」と、夜中にチャリンコに浴衣で町を走ったことがある。最初のうちは、わー涼しいと思ったが、運動しているのだから結局暑くなり、汗びっしょりで酷い目にあった。だが僕が汗っかきでなければ、ヒデヨシも汗っかきにはならなかったのは間違いない。毎年夏が来るたび、奴は「暑いのよー」とビドビド汗を流し、ひたすら涼を求めてさまよう。それは暑がりの僕の心の叫びなのだ。暑がりにして寒がり、ようするに我慢のきかない作者のザマが描かれているのだ。

『銀宮ノ笛』。アラ、表紙の蛸と月のベタ・シルエット、なかなかですなあ。描いた本人が、他人事のように感心し

ました。



僕は楽器を買うのが趣味で、結局弾かない吹かない傾向がある。かつて南米フットボール・ツアーに参加し、フットボール馬鹿を積んだバスでリオの町をジーコ経営のトレーニングセンター目指して走った時、「楽器屋に止めて下さい、すぐ終わります」と言いながら、1時間近く楽器をあさったのが僕だ。そしてバスにもどれば殺人犯を見るようなツアー民の目。挙げ句の果てにジーコの所へ行ったら、「ジーコはさっきまで居ましたが、あと二時間はもどりません」と言われ、もー口聞いてくれる奴居なかったもんね。こうして他人を酷い目に会わせてまで買った小型ギターのカバキージャ、今や仕事部屋に寝ているが、ろくに弾いていないのよ。ブェノスアイレスで手に入れたバンドネオン、ペルーのクスコで買ったチャランゴ、ケーナ、サンパウロでまた買ったカバキージャ。「楽器を買い、苦労して運び弾かないこと」、これは病ですなあ。

さて、欲しがるだけの僕とは違い、欲しがらないはずのギルバルスが欲しがった笛。こうした笛の音は、想像の枠で考えても、なにやら異空の音なのだと思う。この話のテーマになっている「微笑みだけが押し寄せる」という言葉は、僕が作った唄の一部だ。「微笑みだけが押し寄せて、俺の体、今通りぬける」。初めに唄ありき、という感じで唄がやがて

作品を描かせるバージョンだ。

『コンコン』。温泉は子供のころから、毎年マツノばあちゃんに湯治に連れていかれていた。年寄りの長湯に退屈もせず、滑川温泉には随分行った。次に賢治関係で大沢温泉。ここの露天風呂は気持ちがいい。粉雪舞う十二月なんぞにボケッと入っていると至福極まりない。そしてそこから登っていったところにある鉛温泉。ここは賢治の弟、清六さんに推薦された場所で、真夜中に入ると、つげ義春さんの作品世界に紛れたような気分になる。米沢は温泉が沢山あって子供のころから温泉ブームとは無関係に、生活の一部として入っていたせいで、特別なものでは無かった。アタゴオルというもの自体、僕にとっての生活の一部としての温泉のような気はするが、いつも簡単に入れるわけはなく、



七転八倒して入る湯船なのだ。さて、招き猫の世界には「風呂猫」というツガイが居るのだが、そこがヒデヨシの招き猫作らないか、という話から、「もりわじん」という作家に出会った。彼の行動日記をホームページで覗(のぞ)いてみると、風呂好き・温泉好き。わじん氏のバイブレーションが波うって来て、この時期の風呂話になったような気がする。『悲しいような、新しいような』。自分で描いた作品なのに、どんな展開になるのか忘れていた。ほう、なるほど。そして終盤の文章を変更した。子供のころ、田んぼや松川の土手で遊んでいると、渡り鳥が高い空を飛んでいくのをよく見た。そんときの不思議な気持ち。この題名は「銀河鉄道の夜」のジョバンニの気持ちのフレーズから。

さて現在進行形の『テルウテ』については、語りようがない。そして苦手な夏の楽しみは、「風呂猫」さんのところで製作中のカレンダー。二千三年の千軒の家庭に、賑(にぎ)わいが届きますように。

※雑誌掲載時のもの→





（初出）コミックフラッパー 2001年12月号～2002年7月号

MFコミックス
アタゴオルは猫の森……………4

2002年8月31日 初版第1刷発行

著者……………ますむら・ひろし

発行人……………松岡博治

発行所……………株式会社メディアファクトリー
〒104-0061 東京都中央区銀座8-4-17
TEL 0570-002-001 03-5469-4760(編集)

印刷・製本…………大日本印刷株式会社

落丁本、乱丁本はお取り替えいたします。
本書の内容を無断で複製・複写・放送することは、
かたくお断りいたします。
定価はカバーに表示してあります。
©2002 Hiroshi Masumura Printed in Japan
ISBN4-8401-0456-5 C9979